

【府中市】

■実施日時：令和5年10月27日（金）14:00～16:00

■参加部署：生活福祉課、高齢者支援課、東京オレンヂ、府中市社会福祉協議会

■実施内容（取組状況の共有・情報交換等）

○ひきこもり支援の中心部門

- ・生活困窮者自立相談支援機関（生活福祉課の福祉総合相談窓口）

○府中市の動き

- ・令和2年度より生活福祉課の福祉総合相談窓口に、ひきこもり相談窓口を設置している。それ以前は児童青少年課の若者総合相談としてひきこもりの相談を受けていたが、ひきこもりの長期化や高齢化の問題を受けて年齢による切れ目のない支援を行えるように事務移管された。
- ・生活福祉課の福祉総合相談の窓口は、生活困窮者の自立相談支援機関と生活保護の相談申請をする担当の2係で構成されており、ひきこもりの相談窓口は現状、生活困窮者の自立相談支援機関が担っている。
- ・庁内含めて、ひきこもりの窓口の認知度の低さが課題。

○地域包括支援センター

- ・地域包括支援センターの職員が、日頃から地域の見守りをし、その中で気になる高齢者やその家族の情報を追っていく際に、ひきこもりの状態や家族の状況を把握している。高齢者本人よりも同居の子がひきこもりの場合が多く、その場合は高齢者本人に子が相談できる窓口を情報提供している。ひきこもりのご本人が関係機関と繋がりづらいので、高齢者対応の担当が子どもの話を聞いている状況が多く、高齢の親だけでなく子どもの支援も同時に行っている。

○民生委員・児童委員との連携

- ・毎年、民生委員・児童委員との会議に出席し、地域で気になる方がいれば生活福祉課に繋げてもらうように周知している。

○生活困窮者自立相談支援機関での対応

- ・「東京オレンヂ」は、教育や生活困窮者の支援、居住、ひきこもり、学習、就労、生活全般の支援をしている民間支援団体であり、府中市から就労準備支援事業を受託し、ひきこもりの支援もしている。就労準備支援事業を幅広い事業として捉えており、社会参加や就労についての準備を大事にしつつも、居場所としての機能を大切に考えて支援展開している。居場所に来るのが難しい方に関しては、訪問支援も行う。

○保健所・保健センターでの対応

- ・家族からの相談が大半で、家族としての関り方を一緒に考えていく。本人が援助を必要と感じられるタイミングで必要とされる支援（医療機関等）に繋げられるよう支援している。また、都の多摩府中保健所でひきこもりの家族会を主催しているので、そこに生活福祉課職員が参加して意見交換をしている。ひきこもり支援に該当しそうな方がいれば、年齢によって生活福祉課や地域包括支援センター等を紹介する。

○地域社会福祉協議会

- ・地域福祉コーディネーターにより、主にアウトリーチを実施。他には、地域福祉推進課から委託されている「困りごと相談会」にて、社協の地域福祉コーディネーター16名が会場に出向いて相談を受けている。

■ひきこもりサポートネットからの情報提供・事例紹介・提案等

- ・希求性が乏しい世帯に関しては、ピア相談などを提案し、気づきを促すアプローチの例を紹介
- ・8050 問題について、先行している自治体の取り組み（民生委員と関係機関との連携）を紹介